



院長 / 医学博士

舟波 裕

1986年、千葉大学医学部卒業後、附属病院第二外科に勤務。2002年よりJFE健康保険組合川鉄千葉病院にて外科・胃腸科部長として、外科・救急・癌治療を中心とした業務に従事。癌化学療法委員会委員長、感染対策委員会副委員長としての活動にも従事し、2011年5月に打瀬並木道クリニックを開院。

## どのような時でも微笑みを絶やさず 地域から頼られる医療を提供し続ける

現在は減少傾向にある「街のかかりつけ医」として、地域住民のちょっとしたケガから、病気の早期発見まで幅広く役立つべく、2011年5月に千葉・幕張に開院した打瀬並木道クリニック。同院には、「患者様の思いを大切にしたい」という舟波院長の願いが込められている。

### 医師とはサービス業である

辺見 舟波院長のご専門は何ですか？

舟波 専門はもともと癌です。私が千葉大学卒業後に入局し修練を積んだ千葉大学第二外科は、食道癌治療のバイオニアとして世界的に有名な外科です。私自身も食道癌を中心に、胃癌や大腸癌などの消化器の癌や乳癌など、様々な癌診断・治療に対応しました。

辺見 医療現場に身を置かれていると命に関わる場面も多く、治られた時の感動はひとしおではないでしょうか？

舟波 癌患者や重病患者が笑顔で退院される時は、やはりすごく嬉しいです、達成感に繋がります。その思いが忘れられないから、日々の激務も頑張れました。

ただ、治療を施しても間に合わなかった時は辛いです。以前、救急外来に心停止で来院された方がおられました。何時間も心臓マッサージを続け、一時は何とか目を開けるまでに戻りましたが、ご家族が到着されると、ずっと目を閉じ亡くなりました。すでに止まっている心臓を必死になって動かし続けることは、医学的には意味のないことかもしれません。それでもやり続けたのは小さな意地なんです。我々医療関係者の——。

辺見 私も父を亡くした時や母の介護で、お医者様に何度もお世話になります。人の命を預かるというお仕事の大変さや、厳しさを感じます。ところで、患者様に接する際に心がけていることはありますか？

### Company Data>>



打瀬並木道クリニック  
—内科 外科 消化器・乳腺外科—

〒261-0013

千葉県千葉市美浜区打瀬 1-2-1

幕張ベイタウンプラザ 3F

TEL 043-297-7337 / FAX 043-271-0273

URL <http://www.namikimichi-clinic.jp>

舟波 私は医療はサービス業だと思っています。例えば、胃が痛いとおっしゃる患者様でも、ちょっと薬をもらえればいいという方もいれば、しっかり検査してほしいという方もいます。癌でも、手術で治したい方もいれば、もう痛いのは嫌だという方もいます。命を救うのにどういう手段があるかを提示するのは医師ですが、選択するのは患者様です。各々の価値観やポリシーの中で出された決断についてどれだけサポートしていくかが、医師の務めだと思っています。

### 地域に安心できる医療を届ける

辺見 独立のきっかけは何ですか？

舟波 大きな病院は人の命を助けるという使命が大きくなり、患者様の選択肢が狭められることがあります。それに大変忙しいですから、いわゆる1分診療で、患者様とゆっくり話す時間がありません。それが病院を辞めた大きな理由です。



辺見 サービス業を全うできないと。

舟波 そうですね。人対人の時間を作ろうと思うと、組織を離れた方が自由にできますからね。あと、地域の外科医が今、非常に少なくなっていて、ちょっとしたケガを診てくれるところが少ないです。

ならば私自身が診ようと、開院する決意をしたのです。

辺見 でも、個人医院ですと検査機器を揃えるのも大変ですね。

舟波 ええ。それでも、医療の質を落とすわけにはいきません。そこで、内視鏡には患者様の苦痛を少しでも和らげるよう一番新しい鼻から入れるタイプを導入。さらに超音波診断装置や、マンモグラフィも揃え、微小な早期癌でも見つかるように、最新の環境を整えました。

辺見 街の人にとって心強いですね。

舟波 時に、より高度の専門医療を必要とされる疾患の方が来院されることもあります。この地域は千葉大時代からの専門医の友人が大勢いて、私自身が誰がどの疾患に強いかわかっているので、電話1本でアドバイスをもらったり、紹介することができ、その点は本当に心強いです。友人たちにはいつも感謝しています。

辺見 患者様を守るための横の繋がりも大事なんですね。ご友人との繋がりや、院長のこれまでのご経験はもちろん、お人柄もあると感じます。

舟波 良い治療をするためには、やはり患者様に心を開いてもらわないといけません。実は、外科医になって3年目に、ある先輩の外科医から「毎日、患者様の数だけ冗談を考えてきなさい」と言われました。「病気で苦しんでいる患者様に対し医師が困った顔をしたら、患者様はもっと苦しくなる。そんな患者様でも笑わせたら君の勝ちだ」と。その言葉は、私の座右の銘です。苦しくて笑えない患

者様なら、笑えるまで治療しなくちゃいけないと思っています。患者様が安心してニコッとできたら、私の仕事は成功。

辺見 プロフェッショナルの極みですね。スタッフの皆さんも本当に良い笑顔だと思いますし、院長の想いはしっかり伝わっていますね。

舟波 スタッフには多様性を求めました。私1人で頑張ってもダメで、看護師や事務からの情報はものすごく大事ですから、それを拾いあげるにはチームを作らなくてはいけない。そこで、色々な経験や考え方を持つスタッフがチームになり、自由に私にものを言ってくれる環境を作ろうと思いました。私がいばるだけの「お医者様」になったらチームとしては終わりですからね。ただ、1つだけスタッフには、常に笑顔でいるようにと伝えています。患者様になっこりと微笑みながら「どうされましたか？」と聞けるスタッフを集めたつもりです。

辺見 最後に今後の目標を。

舟波 この地域の医療レベルを高めることが目標です。大学病院のように医師が切磋琢磨する環境ではない分、自身が努力して、常に新しいことを勉強し、最新医療を地域に還元していきたいです。



▲ 打瀬並木道クリニックのスタッフの方々。どんな時でも笑顔で接し、患者様の心に寄り添う。それが、心に安心を与える

Guest Comment>>

### 辺見 マリ (歌手)

クリニックに入った瞬間、スタッフの方々が笑顔で迎えてくださったのが印象的でした。院長のお人柄と共に、院長自身がスタッフの方に心を開いていらっしゃる風通しの良さを感じました。そうした気遣いに、医療知識や技術を超えたプロフェッショナルな姿勢が感じられます。医師としての責任に加え、サービス業という意識が高いのでしょうか。ご自身もお体に気をつけてくださいね。

